

## 『一步先に』 ～抜け目ない生き方～

ルカ 16：1～13

昨今の社会的な問題として表示を初めとするや食品偽装問題は企業としての目先の利益だけを考えて行為に及びました。逆に付加価値をつけ、将来に渡る安定した利益を得るために考えている北海道の花畑牧場があります。他企業の類似品を作っていく企業もあります。これは目先の事だけで進んだものです。ところで、私たちはどこに目が向きやすいでしょうか。目先でしょうか。花畑牧場のように一步先を見ているでしょうか。今日の聖書箇所では不正をした管理人と雇い主である主人との関係です。ここで不正という事ができますが、私たちの生活の中での不正とはやましい事をして得た利益や後ろめたい事を指し、キリストを知るものとしては嫌煙すべき行動のような錯覚を覚えます。しかしこの時代の不正は「この世のすべて」の事を意味していました。ユダヤ人の価値観の中では正しい事はパリサイ人や律法学者が行う行動をさしてしましたので、それ以外は不正ということになります。ですから不正をして得た事を褒めているイエスキリストの喩えからは何を受け取ればよいのでしょうか。抜け目のない生活をするためにどのようにすればよいのかなのです。抜け目とは足りないものなのです。足りないものを知れば必ずと抜け目がなくなる人生を送る事ができます。それは問題があった時、どのように対処しているのかということです。私たちは目の前で問題があった時、解決しようとすぐ行動できていますか。神に信頼していれば何もなくても大丈夫とっていないでしょうか。この管理人は自分の将来を考えて、抜け目なく借金の棒引きをして周りの人に恩を売っておきました。そうすれば自分を新たに雇ってくれるのではないかと対処していきました。このように悩んでいないで、自分の将来に向けて即行動しました。私たちは行き当たりばったりの生活をしていないでしょうか。これが普段からできるようにするには①賢く生きなければなりません。では賢く生きるとは何でしょうか。それは自主性です。人から言われた事をする、人の真似をしているのではなく、自分であればどういう風に解決をするのかを考えていかなければなりません。私たちは神によって自由意志が与えられています。ロボットではありません。自分で考えて対処するすべを出し、自主的に物事に取り組んでいく事をしていきましょう。神様がせよと言われた事を自主的にしている中であればたとえ失敗したとしても自分の責任ではなく任せた方に責任をくださいます(タラントのたとえ)賢く生きるために自主的に行動していきましょう。②その日暮らしから脱却する事です。その日暮らしでは抜け目のない生き方ではありません。その日暮らしとはイメージが悪いですが、日雇い労働者が浮かんできます。でも私たちもその日だけを考えていけば同じようになります。それでは同じような問題は起こらないように予防をしている、一步先を見た生活になりません。悩み続けていても対処策が浮かばないのは免疫がないのと同じ事になり、抜け目がある生活を送っているようです。③宝の貯え先を変更する。問題が起こった時、宝の貯え先が間違っていると対処のしようがなくなります。自分中心に貯え、生活しているとそれを失ってしまいます。また宝の貯える場所を間違っていると大切なものを失ってしまう可能性があります。では私たちはどこに宝を貯えているでしょうか。目に見える世界でしょうか。それとも目に見えない所にあるでしょうか。宝があるところに心もあります。私たちはキリスト者として信仰を失なわせるような対処方法ではいけません。私たちはイエスキリストの証しのためにこの世で生きています。イエスキリストの恥となるような対処方法ではなく、主の知恵を「鳩のように素直に」受け取り、人に備わっている学習能力により「蛇のように悟く」いき、抜け目ない生き方をしていきましょう。